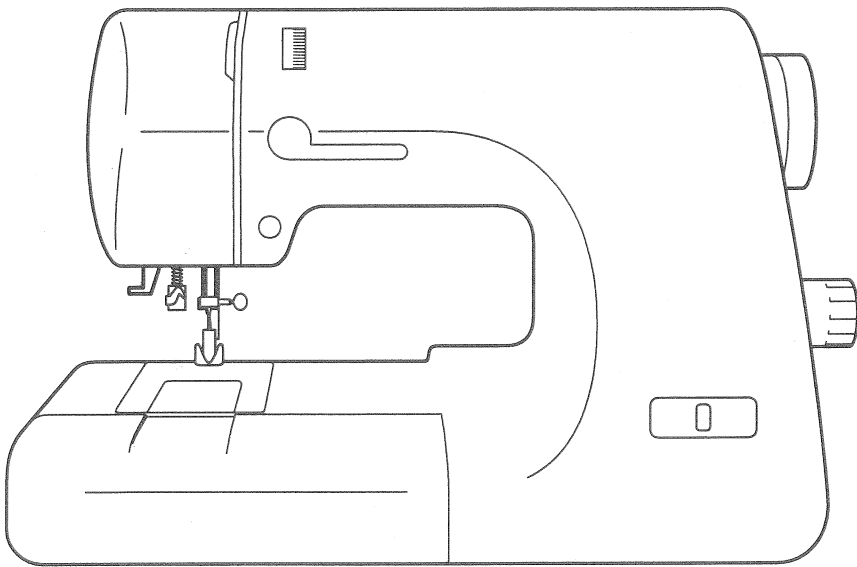


MERRITT

使用の手びき

型式：KN-300EX



このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。

「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

このたびは MERRITT KN-300EX ミシンをお買いあげいただきましてありがとうございます。
このミシンは直線ぬいはもちろん、ジグザグ模様、ボタンホールぬいなどがダイヤルを回すだけで選択でき、ワンタッチ式で筒ぬいもできるフリーアームミシンです。
このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。
「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管して下さい。

安全にご使用いただくために

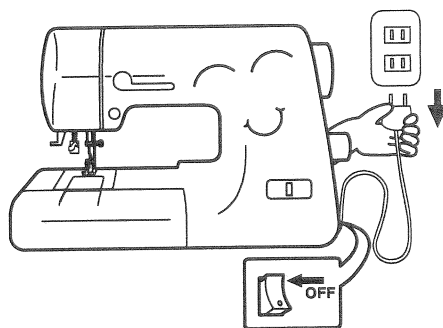
このミシンは安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守って下さい。
このミシンは、日本国内向け、家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.



警告 感電、火災の恐れがあります。

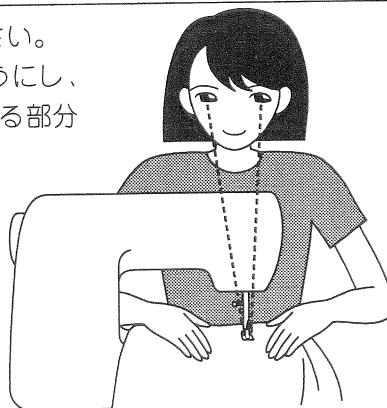
1. 一般家庭用交流電源 100 V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いて下さい。

- ・ ミシンのそばを離れるとき。
- ・ ミシンを使用したあと。
- ・ ミシン使用中に停電したとき。

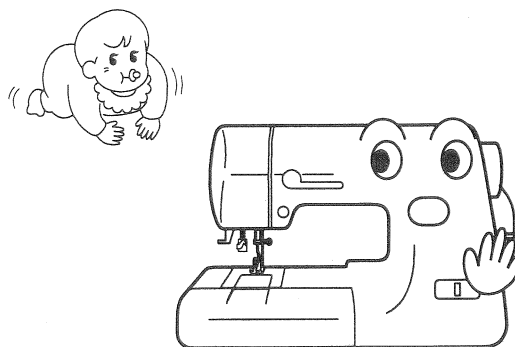


注意 感電、火災、けがなどの原因となります。

1. お客様自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。



3. ミシンの操作中には、すべり板・面板などのカバー類は必ず閉じて下さい。
4. 曲がった針はご使用にならないでください。
5. 裁縫中に布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
6. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用されるときは、特に安全に注意して下さい。



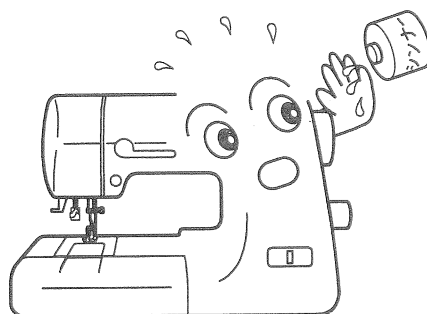
7. 以下のことをするときは、電源スイッチを切ってください。
 - ・ 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
 - ・ ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください)
 - ・ 「使用の手びき」に記載のあるミシンのお手入れを行うとき。
 - ・ 原則として上糸、下糸をセットするとき。
8. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - ・ 正常に作動しないとき。
 - ・ 落下などにより破損したとき。
 - ・ 水に濡れたとき。
 - ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
 - ・ 異常な臭い、音がするとき。
9. ミシンを正しく使用するためには安定したテーブル、机においてご使用ください。

仕様

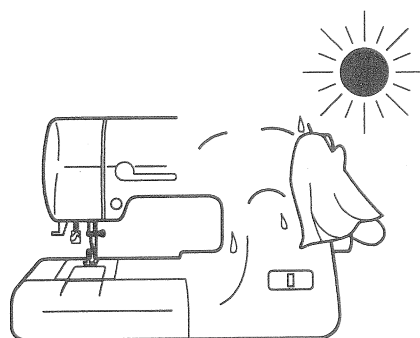
定 格 電 圧	100 V
消 費 電 力	65 W
周 波 数	50 Hz / 60 Hz
ラ ン プ 定 格	15 W / 100 V
寸 法	幅 : 355 mm × 高さ : 255 mm × 奥行き : 175 mm
重 量	5.1 kg

ミシンの取り扱い

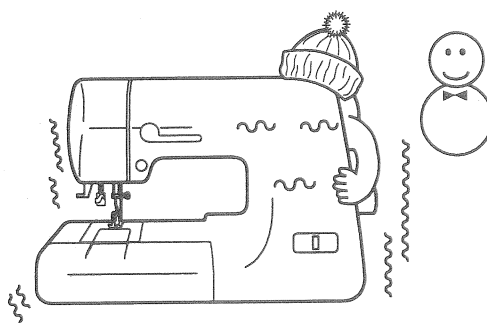
- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
汚れたら、やわらかい布に中性洗剤を少し含ませて、よくふき取ってください。



- 直射日光に当てたり、高温多湿のところには置かないでください。



- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。
時間がたてば正常に作動するようになります。
保管はなるべく寒いところをさけてください。



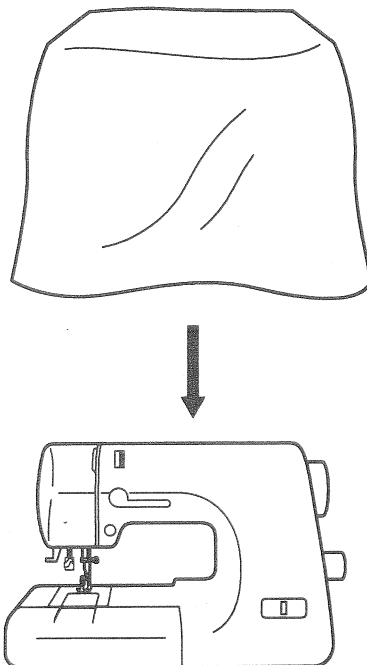
当社は、皆様に常に最新の裁縫性能を提供するために、必要に応じてこのミシンの外観、デザインまたは、付属品の変更をすることがあります。

目次

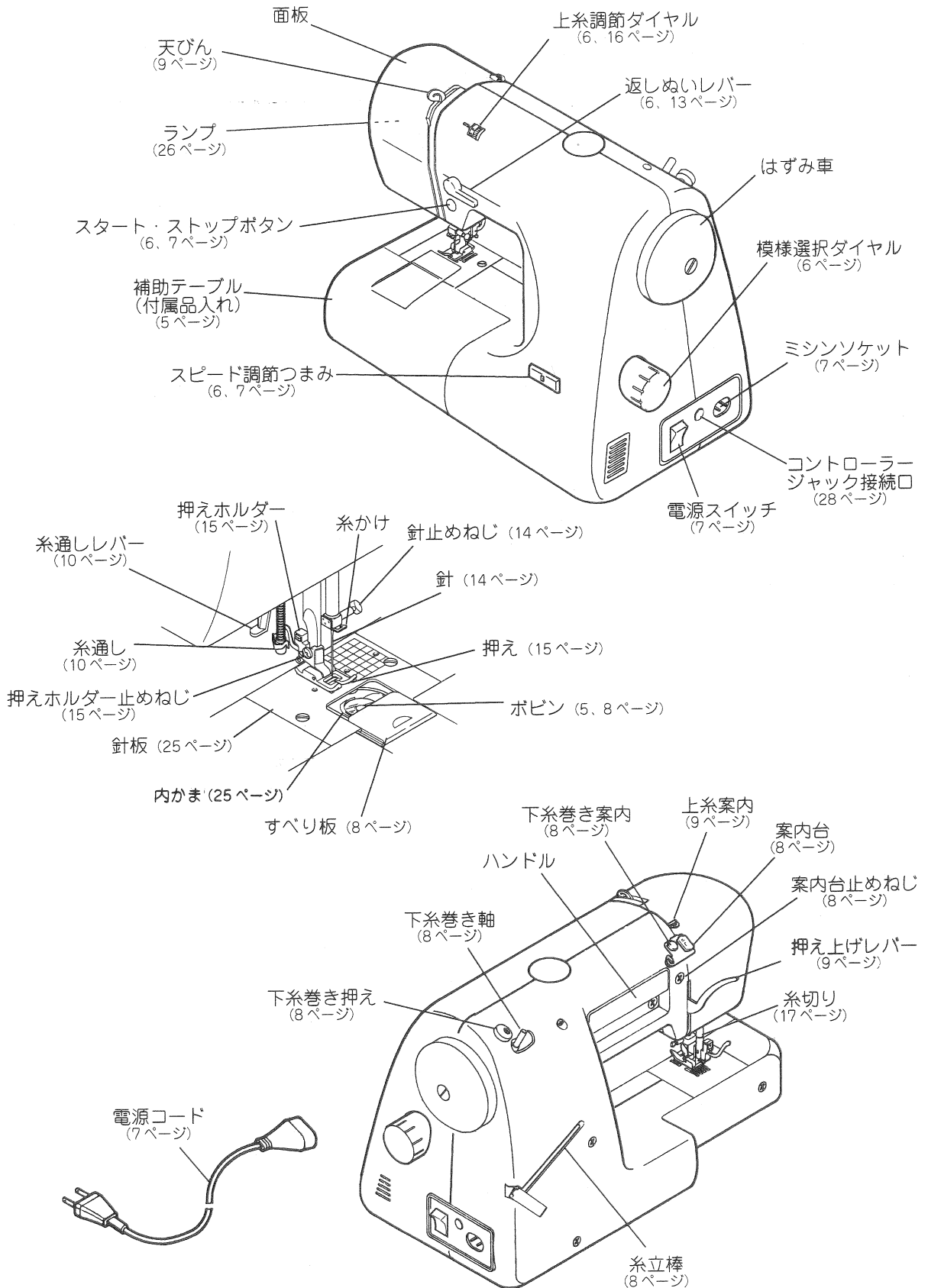
	ページ		ページ
安全にご使用いただくために	表紙裏	押えの取り替え方	15
仕様	2	糸調子の取り方	16
ミシンの取り扱い	2	直線ぬい	17
ミシンカバー	3	ジグザグぬい及びたち目かがり	18
各部のなまえ	4	厚地のぬい始め	18
補助テーブル（付属品箱兼用）・付属品	5	段ぬい	18
各部のはたらき	6	点線ジグザグ	19
電源のつながり方	7	フリーアームぬい	19
スタート・ストップボタン・スピード調節つまみ	7	ボタンホールぬい	20
下糸の巻き方	8	まつりぬい（ブラインドステッチ）	22
上糸のかけ方	9	スカラップステッチ	23
糸通しの使い方	10	ファスナーつけ	24
ボビンのセット	11	内かまのはずし方と入れ方	25
下糸の引き上げ方	12	ミシンのお手入れ（いつも調子よく）	26
針と糸と布地の関係	13	ランプの交換	26
返しぬいの仕方	13	こんなときには	27
針の取り替え方	14	フットコントローラーのご案内（別売り）	28

●ミシンカバー

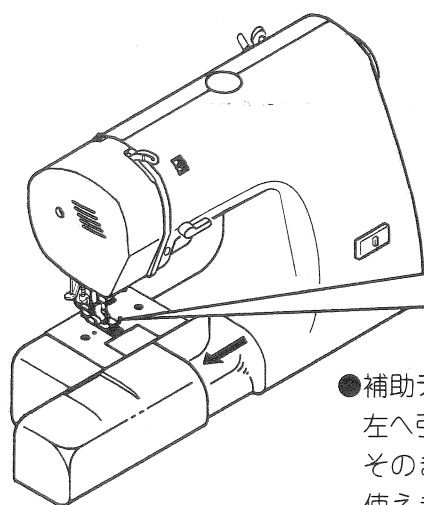
ミシンを使わないときは、ミシンカバーをかぶせておきましょう。



各部のなまえ

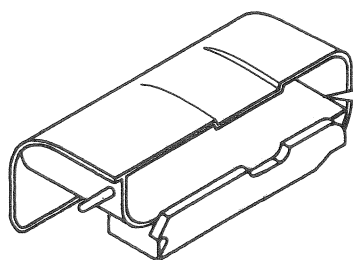


補助テーブル（付属品箱兼用）・付属品



ジグザグ押え
この押えはミシンに
ついてます

- 補助テーブルの左端を持って、
左へ引くと簡単にはずれます。
そのままフリーアームとして
使えます。

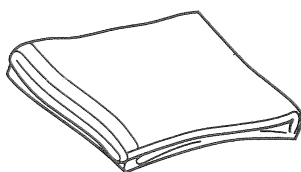


補助テーブル（付属品箱兼用）

- 付属品は、補助テーブルの
内側に収納されています。



電源コード



ミシンカバー



油差し



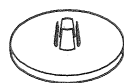
リッパー



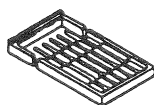
ドライバー



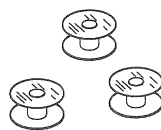
針板用
ドライバー



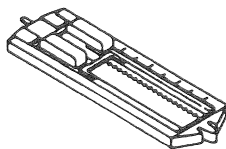
糸巻き押え



ミシン針



ポビン



ボタンホール押え



ファスナー押え

各部のはたらき

⚠ 注意

けが防止のために

模様選択ダイヤルを回すときは、必ず針は上で止めてください

(針が布地に刺さっている状態で模様選択ダイヤルを回すと、針が曲がったり、布地をいためることがあります)

スタート・ストップボタン

このボタンを押すと、ミシンが動きます。もう一度押すと止まります。
(ぬい始め3～4針はゆっくり動きます。)

上糸調節ダイヤル

ダイヤルを回して上糸の調子を調節します。数字が大きくなるほど、上糸が強くなります。

返しぬいレバー

返しぬいは、ぬい始め、ぬい終わりに少しだけ止めぬいのために行います。このレバーを下げている間、返しぬいを低速でぬいます。はなすと止まります。スタート・ストップボタンを押すと前進ぬいに戻ります。

スピード調節つまみ

このつまみはゆっくり（左側）から、はやく（右側）まで自由に選べます。

模様選択ダイヤル

ダイヤルを回すことにより模様が選択できます。

電源のつなぎ方

1. 電源コードを図のように電源コンセントとミシンソケットに差し込みます。
2. 電源と接続し、電源スイッチを「ON」にすると照明ランプが点灯しミシンの作動が可能となります。

⚠ 注意

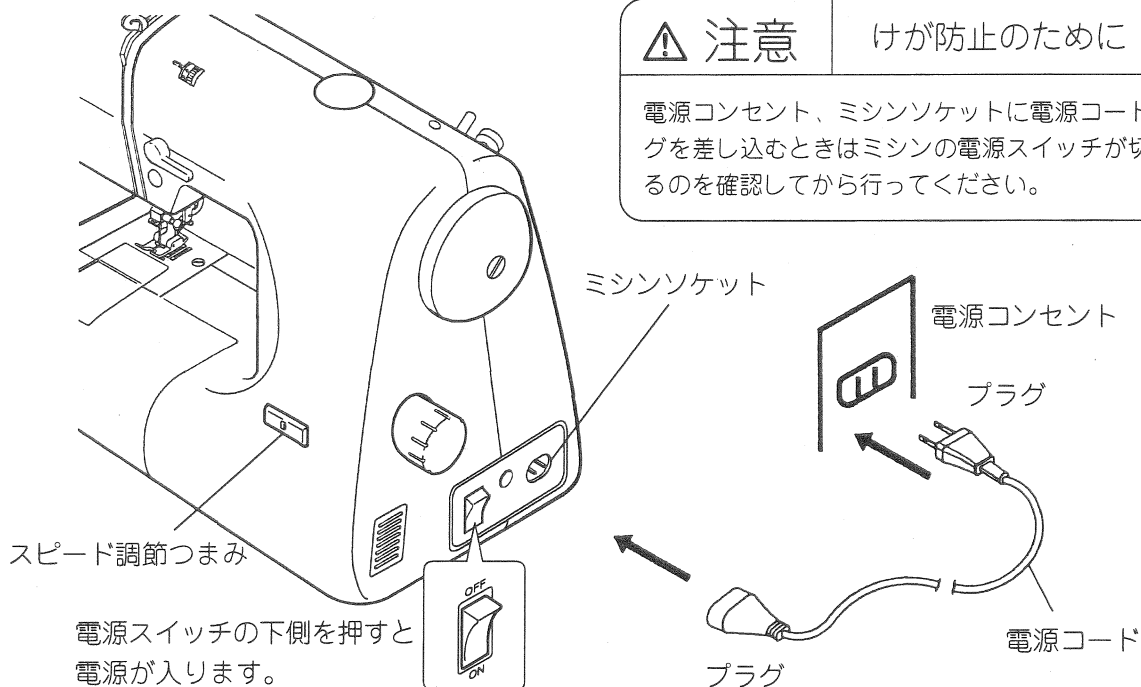
感電、火災を防ぐために

ミシンを使用しないときは、必ず電源コード・プラグをコンセントからはずし、電源スイッチも切ってください。

⚠ 注意

けが防止のために

電源コンセント、ミシンソケットに電源コードのプラグを差し込むときはミシンの電源スイッチが切れているのを確認してから行ってください。



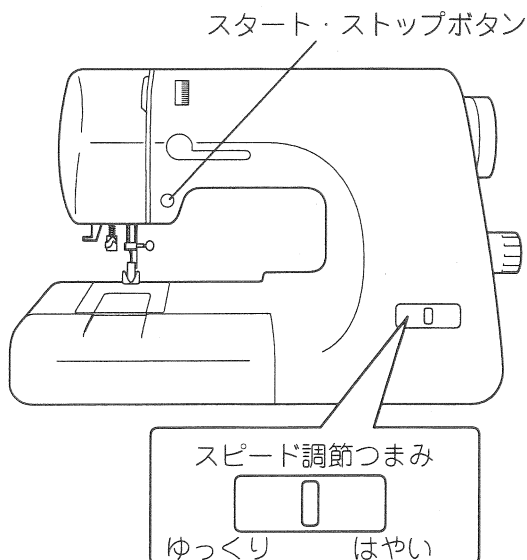
スタート・ストップボタン・スピード調節つまみ

- スタート・ストップボタン
一度押すとスタートし、もう一度押すとストップします。
- スピード調節つまみ
右にすると速くなり、左にするとゆっくりになります。ぬいながらスピード調節できます。

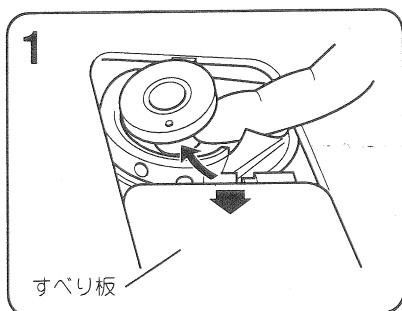
⚠ 注意

けが防止のために

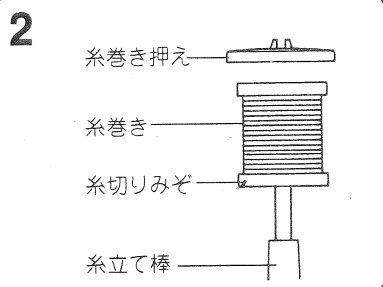
針先には充分注意してください。



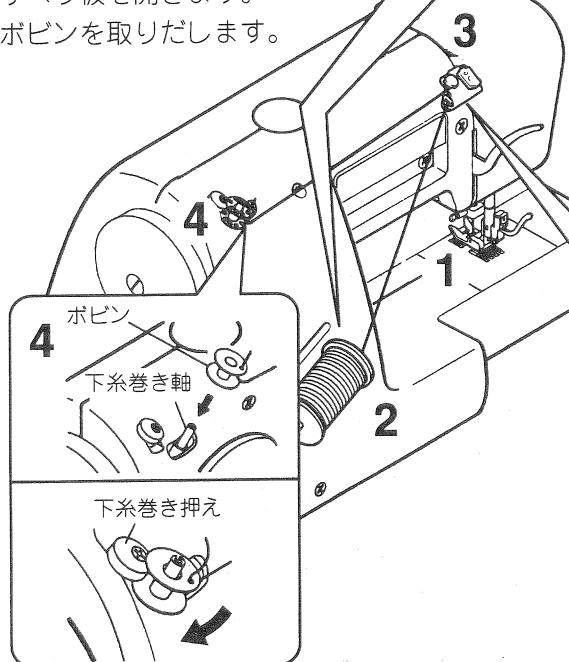
下糸の巻き方



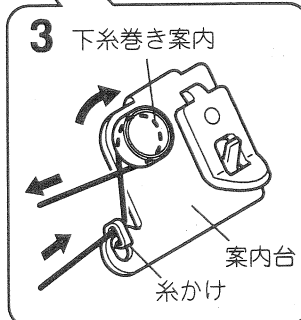
- ・ すべり板を開きます。
- ・ ボピンを取りだします。



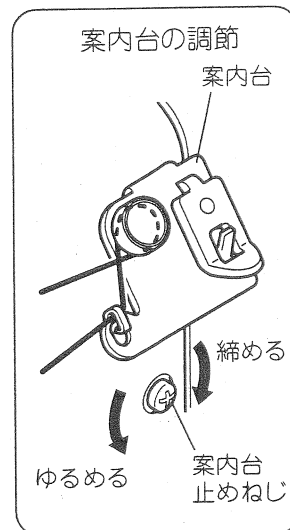
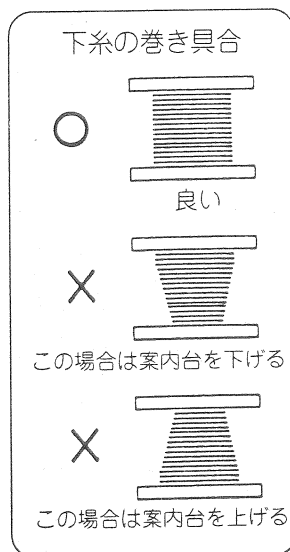
糸巻きに切りみぞがあるときは、それを下側にして糸立棒にさしこみます。(切りみぞが上側になると糸切れの原因になります)



糸の先をボピンの穴に内側から通してから、下糸巻き軸に差し込んで、はずみ車の方へ寄せます。



タスキがけにします。



1. すべり板を開き、ボピンを取りだします。(図“1”)
2. 糸巻きを糸立棒にセットし、糸巻き押えでしっかり押えます。(図“2”)
3. 糸を、案内台の糸かけ、下糸巻き案内にかけます。(図“3”)
4. 糸の先をボピンの穴に内側から通します。下糸巻き軸に、糸を通したボピンを差し込んで、はずみ車側に押し、下糸巻き押えの方へ寄った位置にします。(図“4”)
5. ボピンに通した糸の先を手で持ちます。スピード調節つまみをゆっくりにしスタート・ストップボタンを押すと糸を巻き始めますので、ボピンが数回回転したところで一旦「ストップ」して、持っていた糸を切り、スタート・ストップボタンを押しゆっくり又ははやいにして巻きます。
6. 巻き終わると、ボピンの回転が止まりますので、スタート・ストップボタンを押して「ストップ」にし、ミシンを停止します。
7. 下糸巻き軸を面板側に戻してボピンをはずし、糸巻きにつながっている糸と、ボピンの穴から出ている糸を切ってください。
8. 下糸が平らに巻けないときは、右上の図に示すように案内台止めねじを回して、案内台を上または下へ動かします。

上糸のかけ方

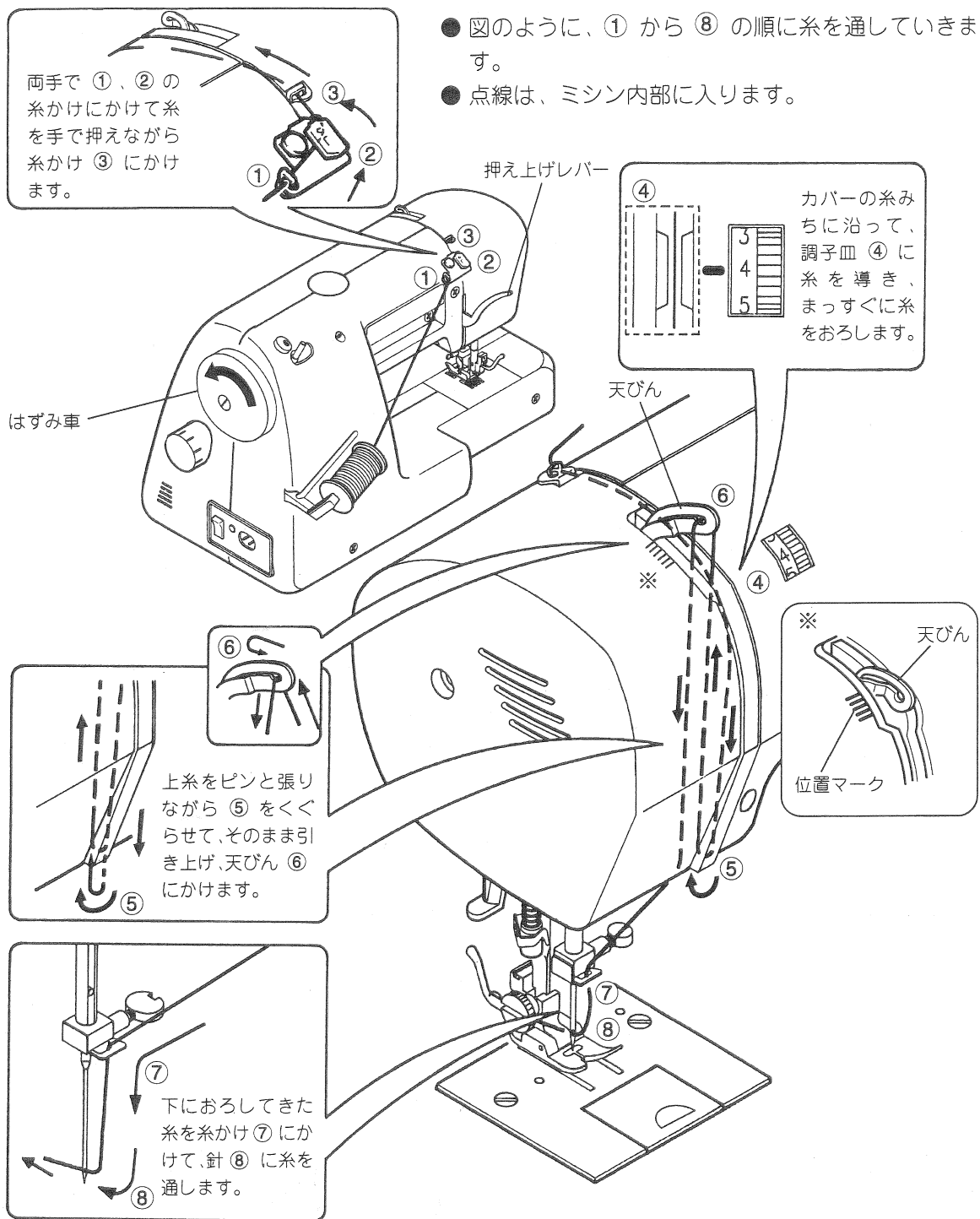
押え上げレバーを上げ、はずみ車を手前に回して、天びんを面板の位置マークの範囲内に合わせて、針を上上げて下さい。

糸のかけ方がまちがっているとぬえませんので正しくかけてください。

⚠ 注意

けが防止のために

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。



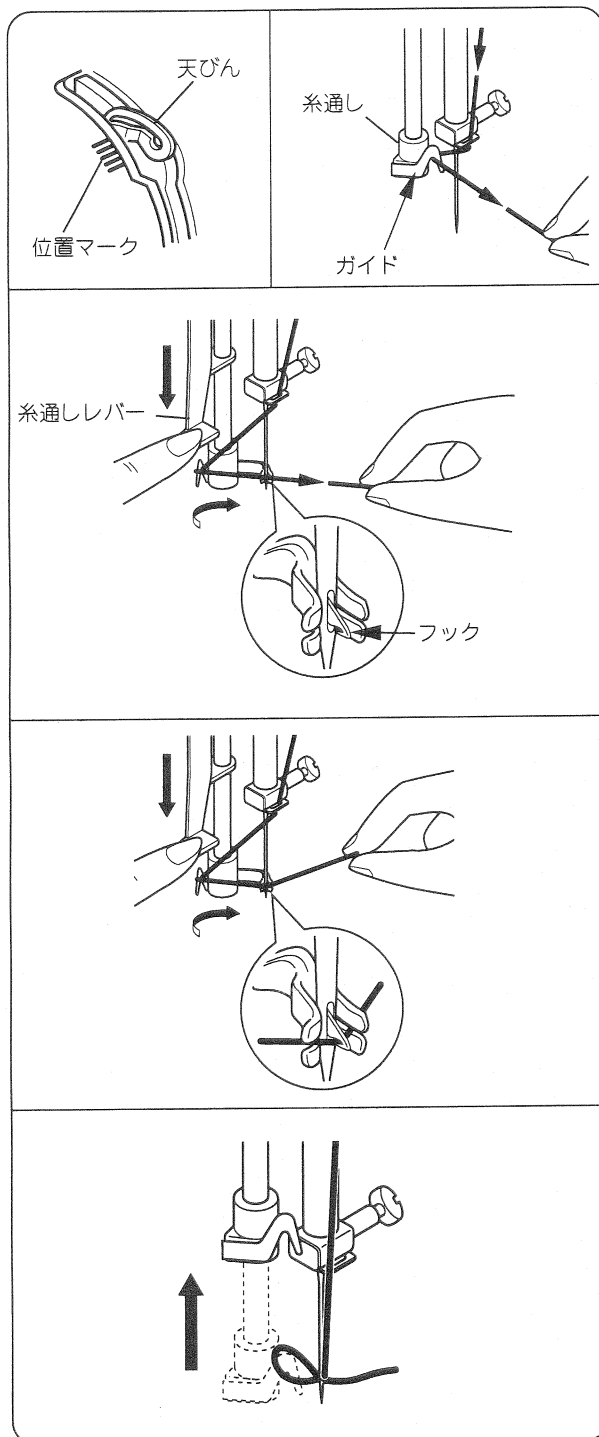
糸通しの使い方

⚠ 注意

けが防止のために

糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。

ミシンが動いているときに、糸通しレバーは下げないでください。糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れけがの原因となることがあります。



- ・はずみ車を手前に回して、天びんを面板の位置マークの範囲内に合わせて針を一番上に上げ、押えを下げます。
- ・ガイドの内側から糸をかけます。

●糸通しレバーをまっすぐ下にいっぱいにおろします。

- ・糸通しが回転し、フックが針穴を通ります。

- ・糸通しのみぞに糸を入れて針にあて、フックにかけます。糸を手前にかかるくひき、糸がかっていることを確かめてください。

- ・糸はしをかるく持ちながら糸通しレバーを離すと、糸が針穴に輪になってとおります。

- ・糸はしを針穴から10cmほど引き出しておきます。

●糸通しが使用できる「針と糸の太さの組み合わせ」は、下の表をごらんください。

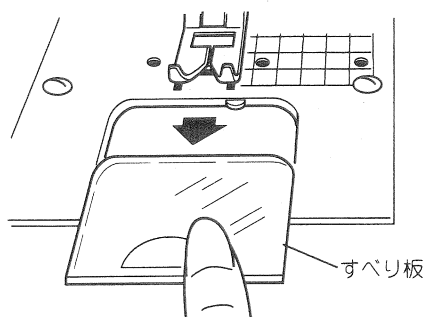
針	糸		
11 番	60 番	80 番	100 番
14 番	50 番	60 番	80 番
16 番	50 番	60 番	

ボビンのセット

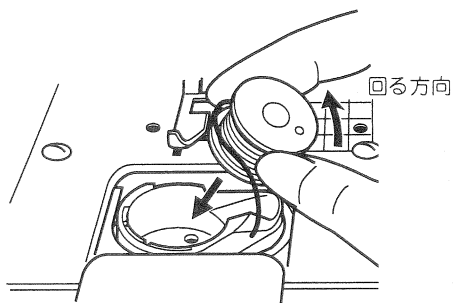
⚠ 注意

けが防止のために

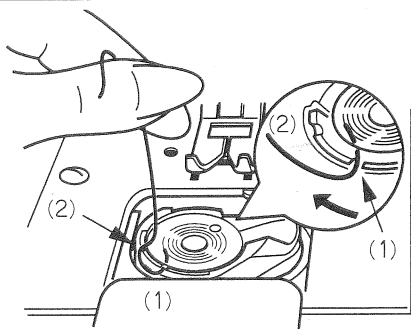
必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。



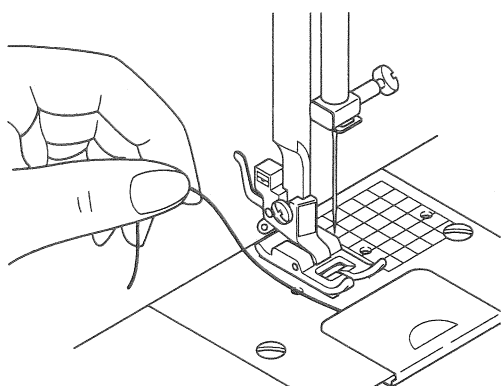
・ すべり板を開きます。



・ 糸はしをボビンから 10 cm ほどひきだしておき、ボビンが矢印の方向に回るようにして内かまに入れます。



・ ボビンを軽くおさえて、糸を内かまの切りみぞ(1)にかけて左にひっぱりながら、切りみぞ(2)にかけます。
(ボビンは左回転します)



・ 糸を押えの後にひきだします。

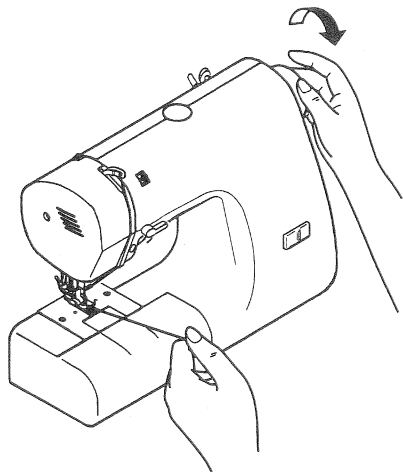
・ すべり板を閉めます。

下糸の引き上げ方

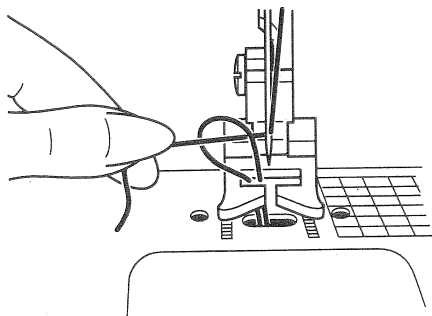
⚠ 注意

けが防止のために

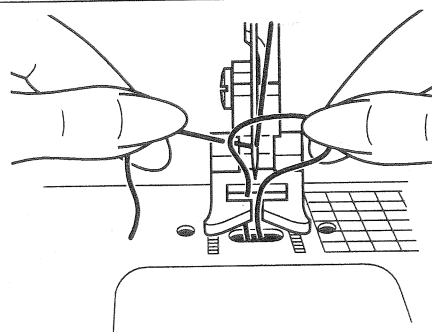
必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。



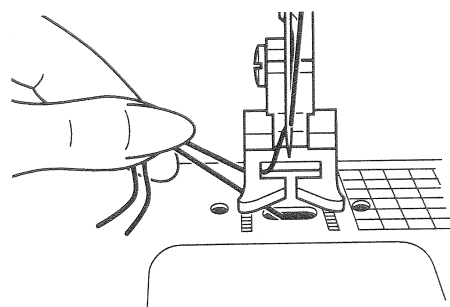
- ・上糸のはしを左手で軽くもちます。
- ・はずみ車を手前に 1 回転させます。



- ・上糸をひきあげれば、下糸の輪がついてでてきます。



- ・下糸のループをひきだします。



- ・上糸と下糸をそろえて押えの下からうしろへひきだします。

針と糸と布地の関係

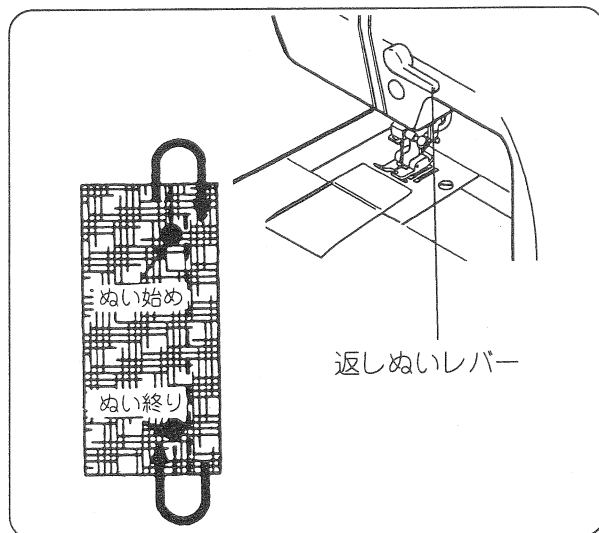
きれいにぬうためには下表を参考にして、布地に適した針と糸を使用してください。
 なお、上糸と下糸は、普通同じ種類のものを使用してください。

布地の種類		糸の種類	糸の太さ	針
普通地	ブロード	カタン糸	60 ～ 80	11 ～ 14
	タフタ	合繊糸	60 ～ 80	
	フラノ ギャバジン	絹糸	50 ～ 80	
薄地	ローン	カタン糸	60 ～ 80	9 ～ 11
	ジョーゼット	合繊糸	60 ～ 80	
	ポーラ	絹糸	50 ～ 80	
厚地	デニム	カタン糸	40 ～ 50	14 ～ 16
	コーデュロイ	合繊糸	50	
	ツイード	絹糸	50	
のびる布地	トリコット ジャージ	ニット用糸		ニット用針 11 ～ 14

●針の取りかえ方は、14 ページを参照ください。

返しぬいの仕方

- 返しぬいは、ぬい始め、ぬい終わりに少しだけ止めぬいをするために行います。返しぬいレバーを下げると返しぬいを低速でぬいます。はなすと止まります。スタート・ストップボタンを押すと、前進ぬいに戻ります。



針の取り替え方

⚠ 注意

けが防止のために

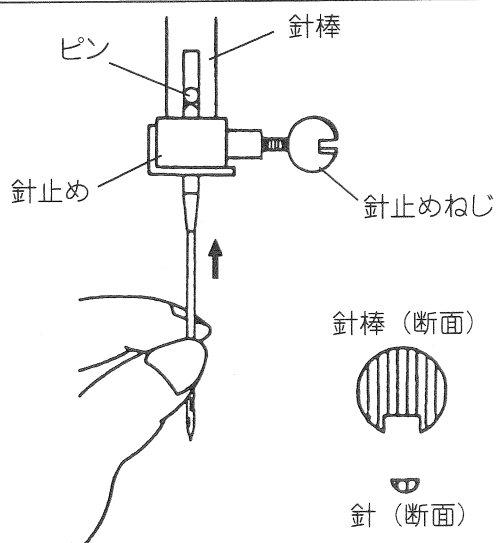
必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

⚠ 注意

けが防止のために

針は、家庭用ミシン針とご指定の上、お買い求めください。

1. はずみ車を手で手前に回して、天びんを面板の位置マークの範囲内に合わせて、針を上に戻します。
2. 付属の針板用ドライバーを使って、針止めねじを左に回しゆるめます。
3. 新しい針の平らな部分を向う側に、丸い部分を手前にして、針の止まる位置まで深く差し込んでください。
4. 針止めねじを針板用ドライバーで右へ回してかたくしめます。

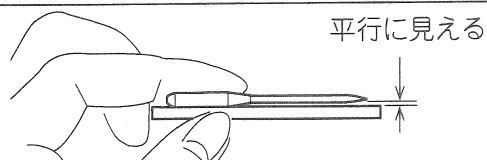


⚠ 注意

けが防止のために

曲がった針や、先がつぶれた針は、危険ですのでご使用にならないでください。

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



押えの取り替え方

⚠ 注意

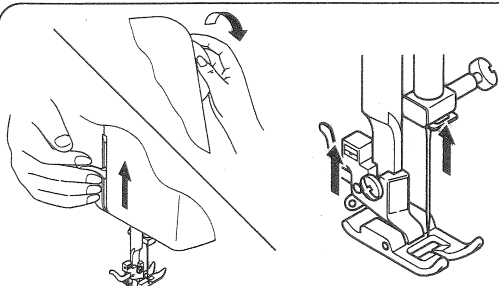
けが防止のために

必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

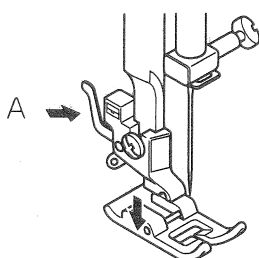
⚠ 注意

けが防止のために

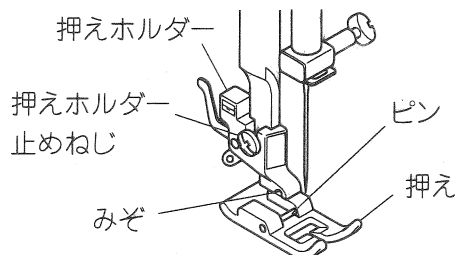
ぬい方に応じて「使用の手びき」に指定している押えを使用してください。他の押えを使用しますと針が押えにあたることもあり、危険です。



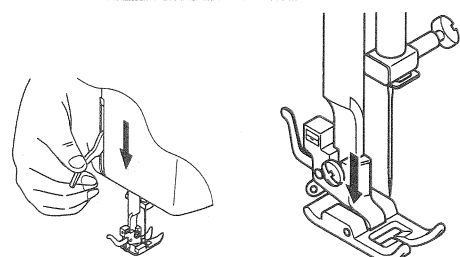
1. はずみ車を手で手前に回して、針を一番上に上げます。
2. 押え上げレバーを上げて、押えを上げます。



3. 押えホルダーレバー(A)を矢印方向に押すと、押えがはずれます。



4. 交換する押えのピンを、押えホルダーのみぞの真下に合わせます。



5. 押え上げレバーを下げると、ピンがみぞにはまります。もし、完全にはまらないときは、押えホルダーレバー(A)を押して、はめてください。

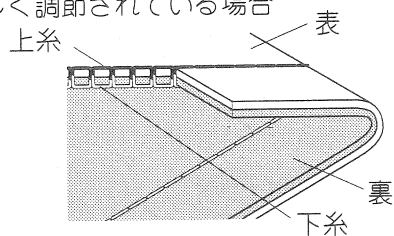
⚠ 注意

けが防止のために

押えホルダーは押えホルダー止めねじでしっかりしめつけてください。

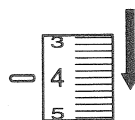
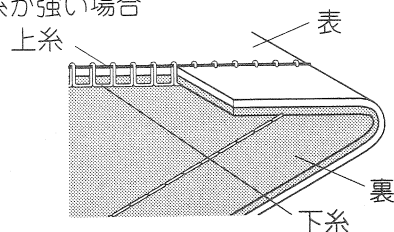
糸調子の取り方

● 正しく調節されている場合



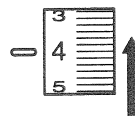
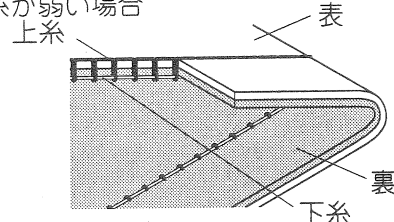
左図のように、上糸と下糸が布のちょうど中間で交差して、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常です。

● 上糸が強い場合



上糸調節ダイヤルを下に回し、上糸調子を弱めます。

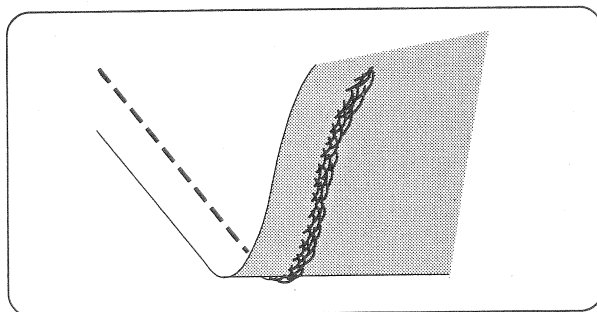
● 上糸が弱い場合



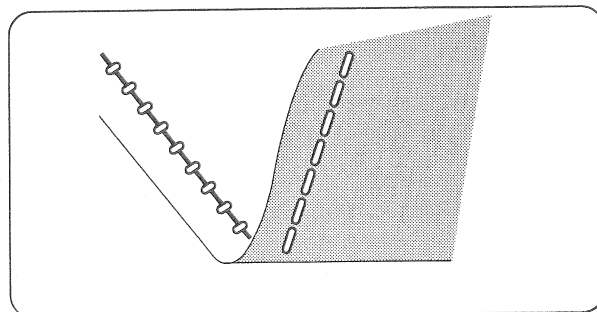
上糸調節ダイヤルを上回し、上糸調子を強めます。

● こんな場合は

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようになるのは上糸の調子が弱い、上糸のかけ方がまちがっています。9ページをご覧の上、正しくかけ直してください。



また、上糸の調子を弱めても下糸が布地の表側に出てくるときは、ボビンの入れ方が違っていています。11ページをご覧の上正しく入れ直してください。



直線ぬい

⚠ 注意

けが防止のために

布地はミシンによって自動的に送られますので、無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。針が折れ、けがをすることがあります。

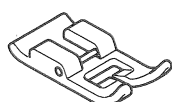
● ミシンを合わせましょう

上糸調節ダイヤル

2～5



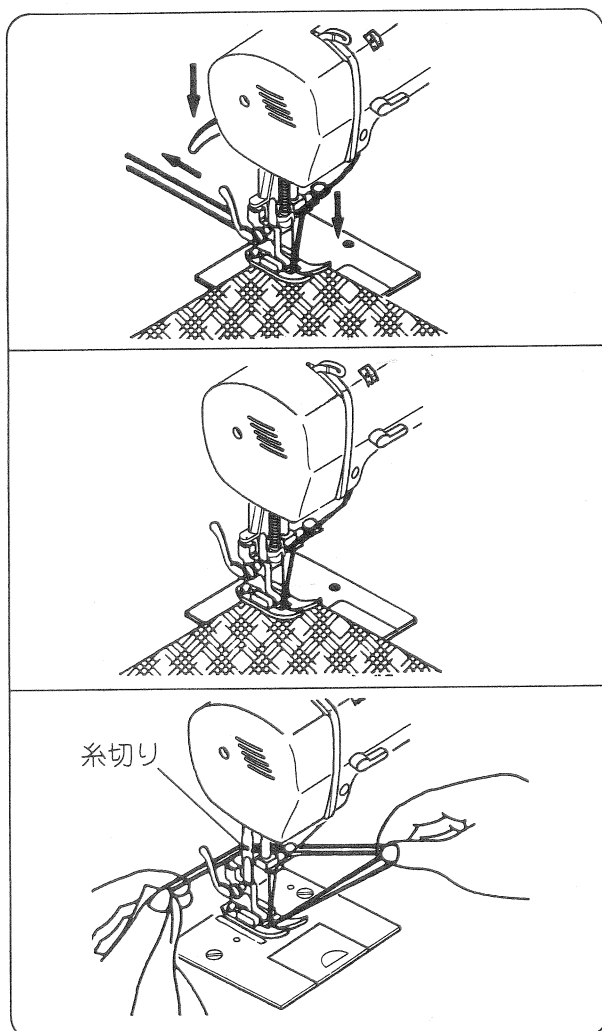
シグザグ押え



模様選択ダイヤル

1 2 3

3種類から選びます



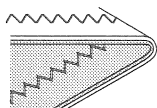
● 直線ぬいの手順

- ・はずみ車を手前に回して、天びんを面板の位置マークの範囲内に合わせて、針を上上げます。
- ・上糸と下糸をそろえて押えの下から向こうへ10 cmほど引き出します。
- ・はずみ車を手で手前に回して、ぬい始める位置に針をさし、押え上げレバーを下におろします。
- ・スピードをお望みのスピードにセットし、スタート・ストップボタンを押してぬい始めます。
- ・ぬっている間は、ミシンの布送りに合わせて、布を軽く導いてください。
- ・ぬい終わったら、スタート・ストップボタンを押して止めます。
- ・はずみ車を手前に回し、天びんを面板の位置マークの範囲内に合わせて針を一番上に上げます。
- ・押え上げレバーを上げます。
- ・布を左方向に15 cmくらい静かに引き出します。
- ・押えの棒の裏にある、糸切りに上糸と下糸をそろえて通し、図のように両手で引っ張って糸を切ります。

ジグザグぬい及びたち目かがり

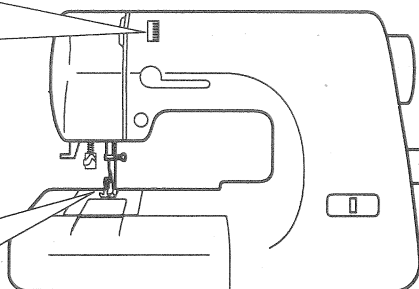
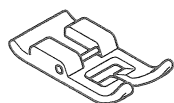
● ミシンを合わせましょう

上糸調節ダイヤル



布の裏側に、上糸が少し出るくらいに調節します

ジグザグ押え

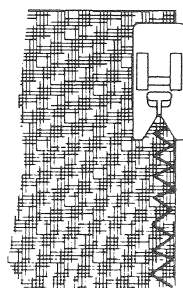
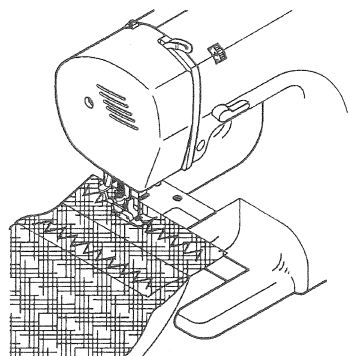


模様選択ダイヤル

4 5 6 7

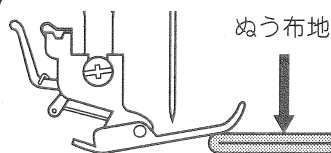


4種類から選びます

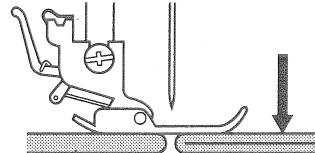


針が布端ぎりぎりに落ちるようにしてぬいます。

厚地のぬい始め



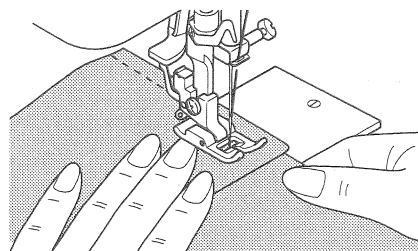
ぬう布地



厚紙または布地

・厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがってぬい始めてください。

段ぬい



・布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

点線ジグザグ

ジャージー・トリコットなど伸縮性のある布地の裁縫に適したジグザグぬいです。

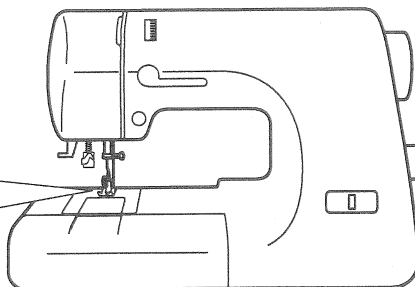
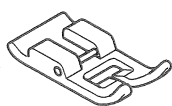
布地が伸びてもぬい糸の切れる心配はありません。

ゴムひものぬいつけや、伸縮性布地のふちかがりなどにも利用します。

● ミシンを合わせましょう

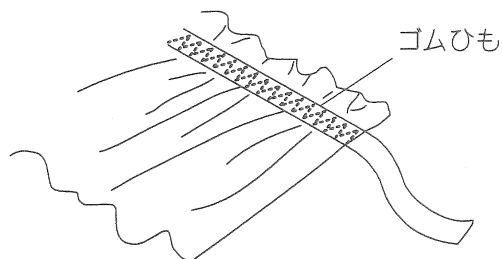
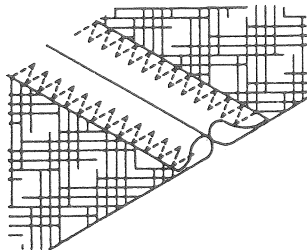
※ 布地の裏・表をまちがえないように注意してください。

ジグザグ押え



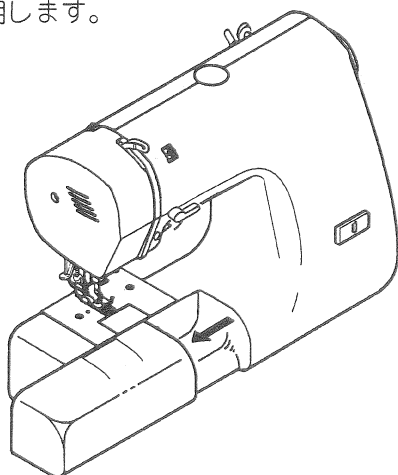
模様選択ダイヤル

9



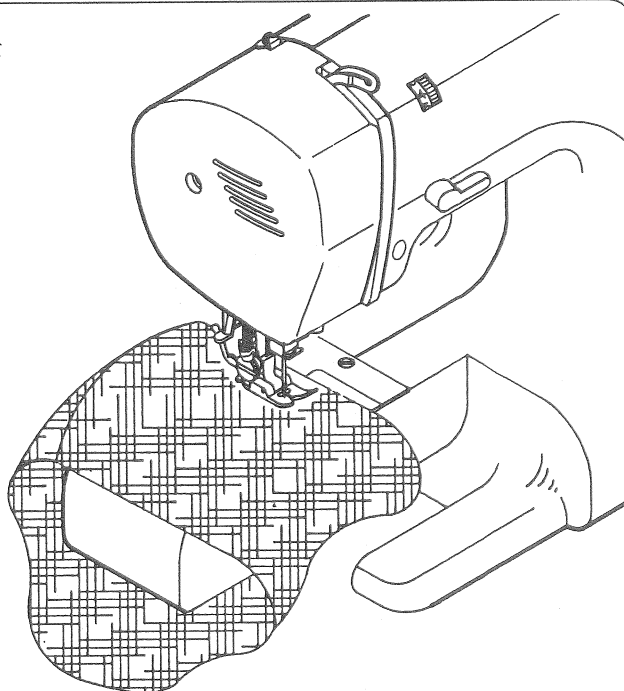
フリーアームぬい

● 袖口や肩口の始末、ズボンのすそまつりぬいなどに使用します。



● 補助テーブルの左端を持って、左へ引くと簡単にはずれます。

そのまま、フリーアームとして使えます。



ボタンホールぬい

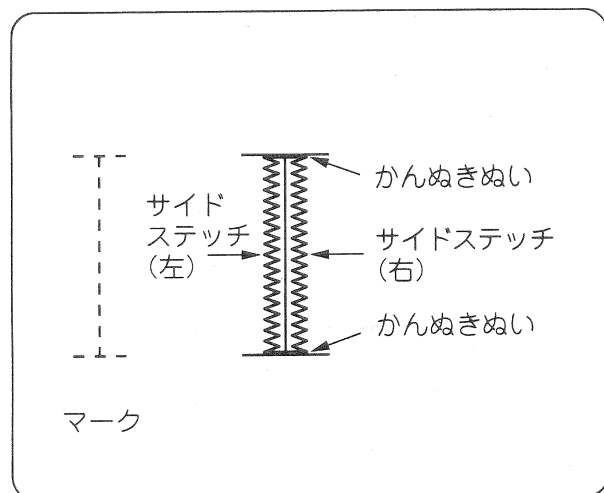
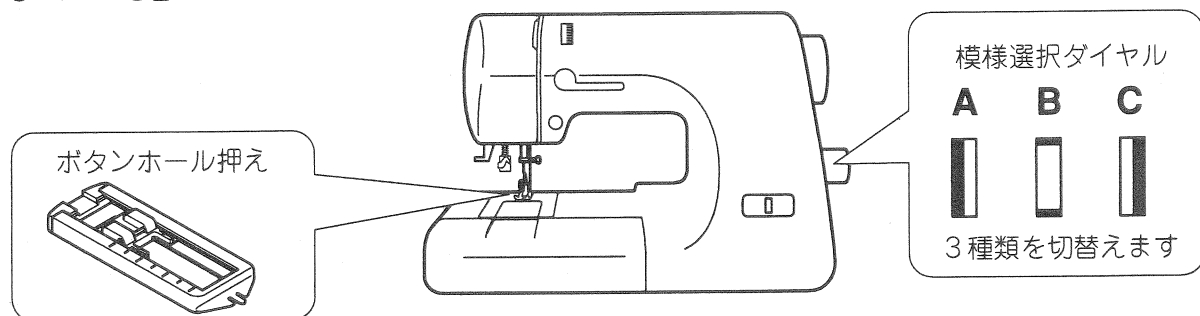
お望みのボタンホールを4つのステップで簡単に作ることができます。

⚠ 注意

けが防止のために

押えを交換するときは、必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

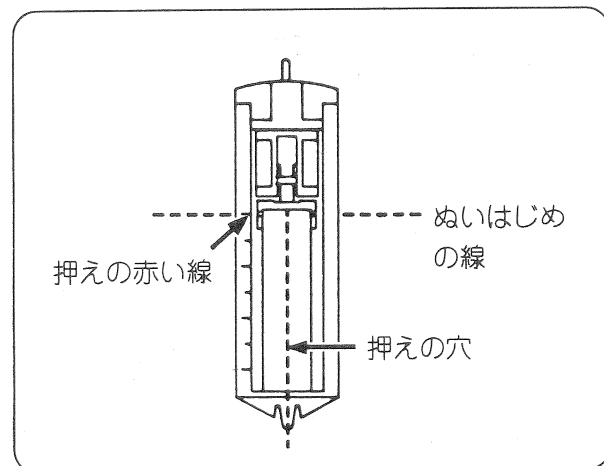
● ミシンを合わせましょう



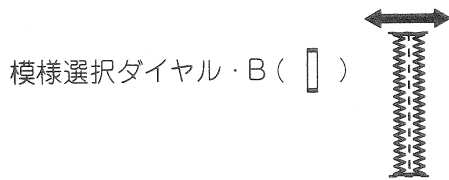
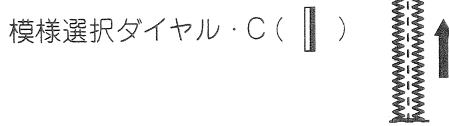
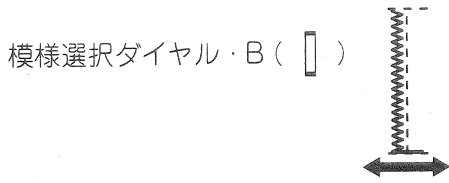
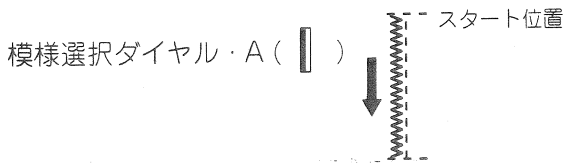
● ぬう前の準備

1. ふつうの押えをはずし、ボタンホール押えを取り付けます。(交換の仕方は、15ページをごらんください)
2. ボタンの大きさ、厚み、布地の種類に応じてボタン穴の長さをきめます。
ボタン穴の長さ：ボタンの直径＋厚み
これを布地にマークします。
3. 布地をボタンホールの上におき、押えの赤い線を布地の縫いはじめの線に合わせ、布地のボタン穴の中心線が押えの穴の中央になるようにして押えを下げます。

※ 本ぬいの前に同じ布のはぎれでためしぬいしてください。



● ボタンホールぬいの手順



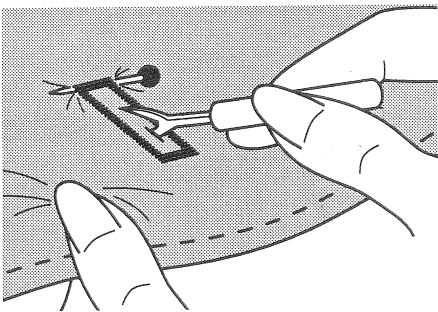
1. 図のスタート位置から、ゆっくりぬい始めて、ボタンホールの寸法位置でミシンを止め、針を上げます。

2. ミシンを運転して、5～6針かんだめぬいをして針が右側にきたところで、ミシンを止め、針を上げます。

3. ミシンを運転して、左側のぬい目と平行になるように右側を図の位置までゆっくりぬい、ミシンを止め、針を上げます。

4. 5～6針かんだめ縫いをします。
なお、模様選択ダイヤルを直線ぬいにセットして、1～2針止めぬいをしてください。

5. ボタンホールをリッパーで切り開きます。
※ ぬい糸を切らないように注意してください。
かん止めのところにまち針をさしておくと、切り過ぎがありません。



⚠ 注意

けが防止のために

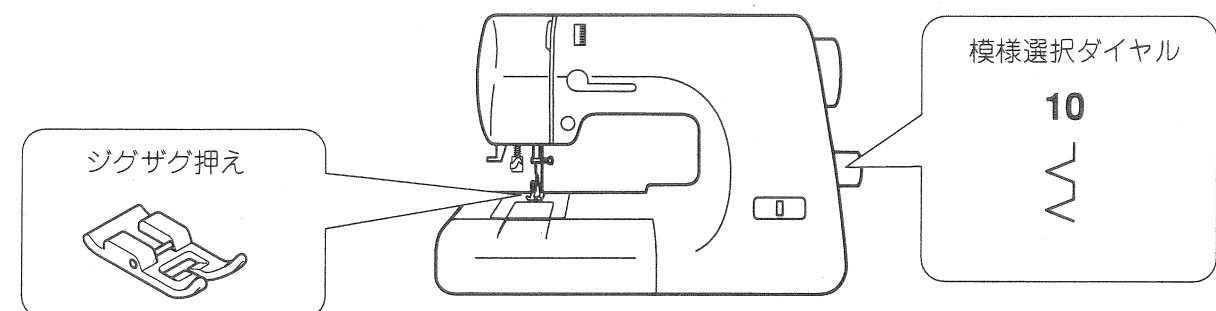
リッパーで穴を開くとき、リッパーの先端に手や指をおかないでください。すべったとき、けがをする恐れがあります。

まつりぬい（ブラインドステッチ）

布地の表側にぬい目が見えないようにぬう方法です。このぬい目はズボンやスカートのすそ、テーブルかけ、カーテンのはしの折り返しなどに利用できます。

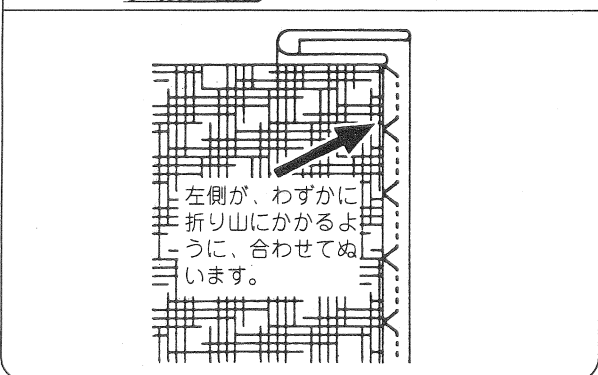
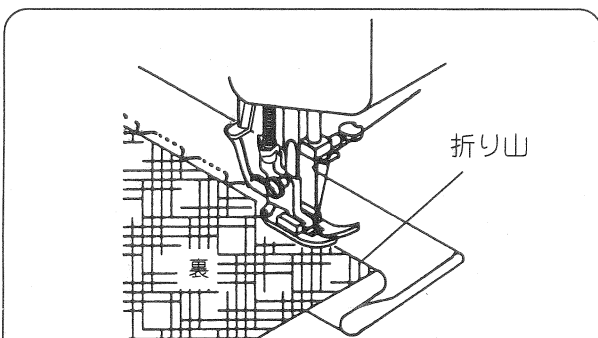
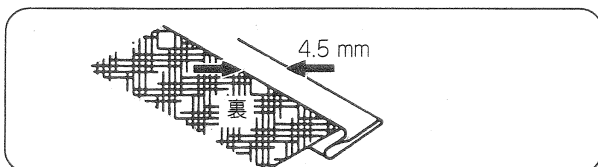
● ミシンを合わせましょう

※ 布地の裏・表をまちがえないように注意してください。

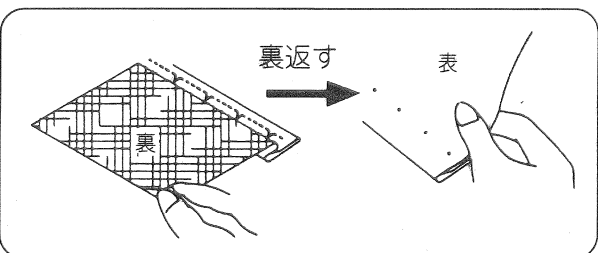


● 布地を、裏側が上になるようにして図のように三つ折りにし、折り曲げた上の布を4.5 mmほどひかえます。

● はずみ車を回して、針が最も左側にくるようにしておきます。
そのときに、針が折り山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。



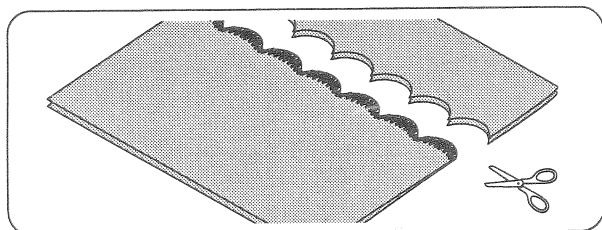
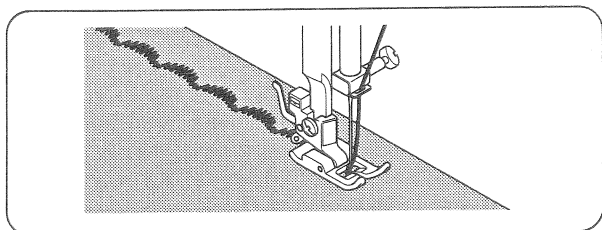
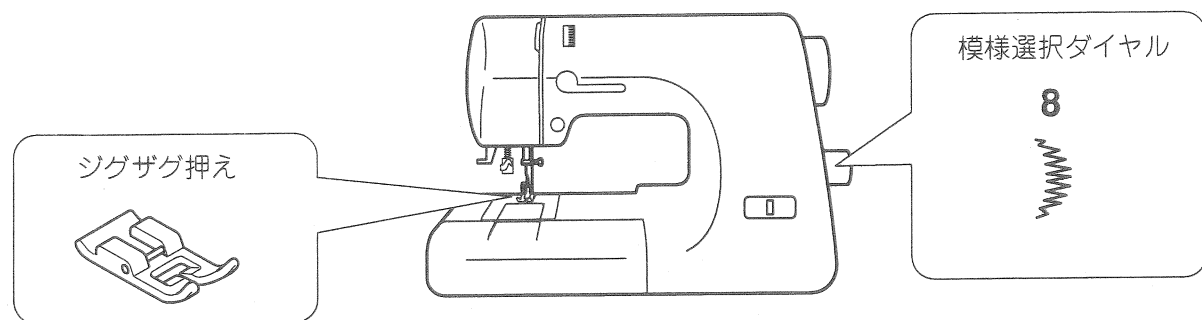
● ぬい終わりましたら、布地を表にひろげます。



スカラップステッチ

ゆるいカーブの連続した模様で、婦人服・子供服やテーブルかけ等の縁飾りとしてやわらかな仕上がりが得られます。

- ミシンを合わせましょう



- ぬい糸を切らないようにして、布地をカットします。

ファスナーつけ

⚠ 注意

けが防止のために

押えを交換するときは、必ず、電源スイッチを切ってから行ってください。

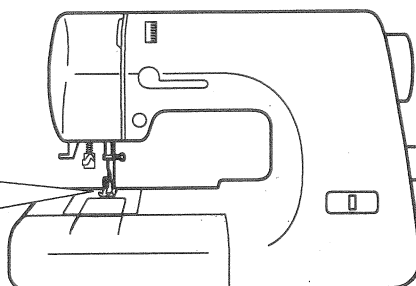
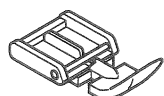
⚠ 注意

けが防止のために

ファスナー押えは、必ず模様1・2・3だけにお使いください。ほかの模様では、針が押えにあたり、針折れの原因になることがあります。

● ミシンを合わせましょう

ファスナー押え



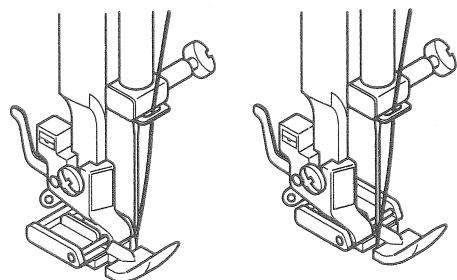
模様選択ダイヤル



● ファスナーつけの手順

1. 押えは常に布地だけを押え、ファスナー金具を押さえないような位置に合わせてください。
 2. 押えがファスナー金具に対して案内になるように合わせますとファスナーから針落ちまでのすきまがそろい、美しくぬいあがります。
- ※ 押えは布地だけを押さえるようにしてください。

ファスナーの左側をぬうときには、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側をぬうときは、左側のみぞを押えホルダーに入れます。

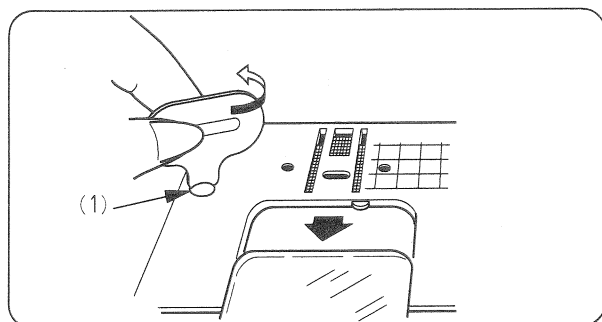


内かまのはずし方と入れ方

⚠ 注意

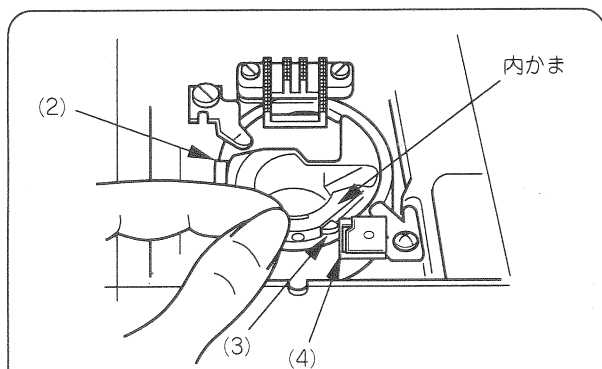
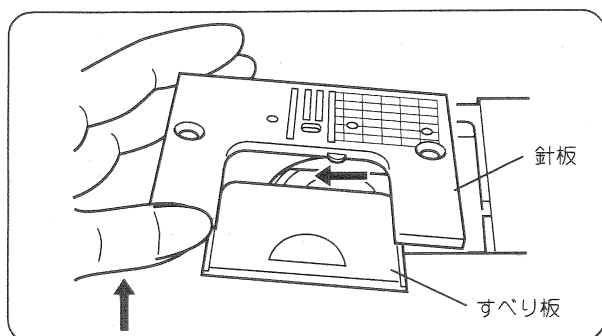
けが防止のために

必ず、電源プラグをコンセントから抜いてください。



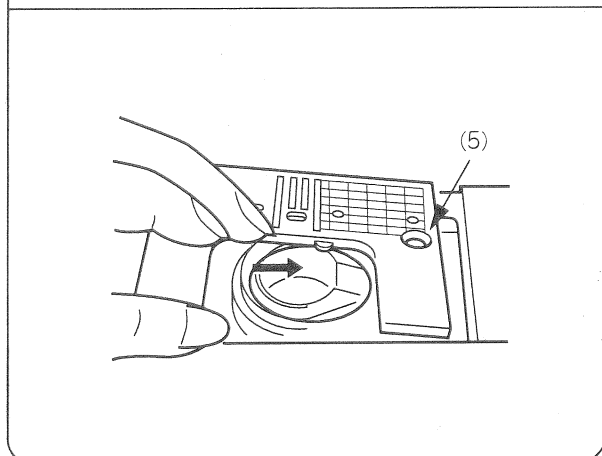
<はずすときは・・・>

- ・針と押えを上げます。
- ・すべり板を開き、ポピンをはずします。
- ・針板止めねじ(1)をはずします。
- ・針板の左側を持ち上げ、左方へはずします。
- ・すべり板をはずします。
- ・はずみ車を手前に回し、かまの切り欠き部分(2)を図示の位置にもってきます。
- ・内かまをはずします。



<入れるときは・・・>

- ・はずみ車を手前に回し、かまの切り欠き部分(2)を図示の位置にもってきます。
- ・図のように、内かまのつば(3)がクッションスプリング(4)に接触する位置に入れます。
- ・針板の止めねじ穴 (5) をベッドの止めねじ穴に合わせ、取りつけます。
- ・針板止めねじをしめます。
- ・ポピンとすべり板を取りつけます。

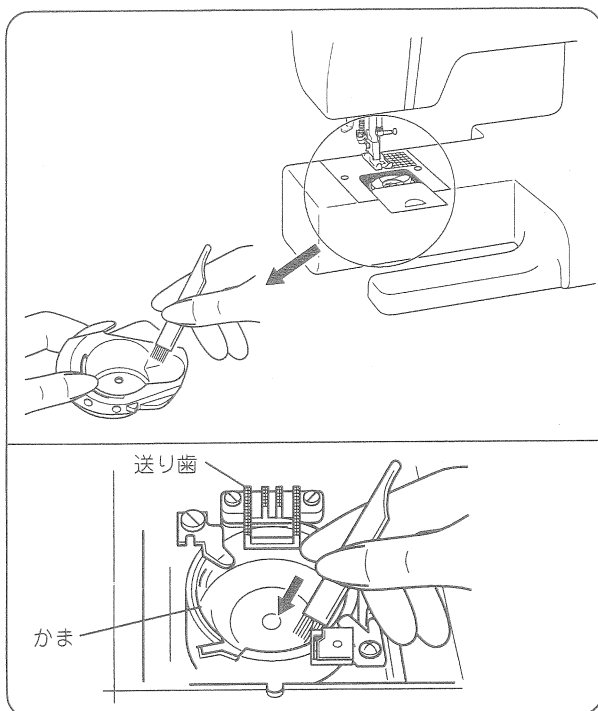


ミシンのお手入れ（いつも調子よく）

⚠ 注意

けが防止のために

掃除の前には、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



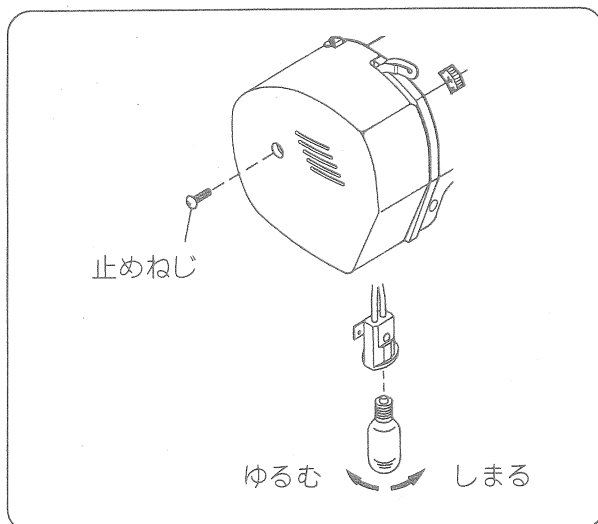
- ・ブラシ等を使用し、針棒、押え棒のごみやほこりを取り除いてください。
- ・内かまのはずし方の項（25ページ）を参照し内かま回りのごみやほこりを取り除いてください。
- ・送り歯やかまの回りも掃除してください。
- ・このミシンは、特に注油する必要はありませんが、数ヵ月以上ご使用にならないときは、矢印のところに1～2滴油をさしておいてください。

ランプの交換

⚠ 注意

けが防止のために

長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをする恐れがあります。
電源プラグを抜いて充分冷えてから交換してください。



1. 止めねじをゆるめ、面板をはずします。
2. ランプを左に回してはずします。
3. 取り付けは、ランプを右へ回します。
4. 面板を元通り取りつけて、止めねじをしめます。

※ このミシンに取り付けるランプは 100 V、15 W、口径 12 mm のねじ込み式ランプに限ります。これ以外は使用しないでください。

こんなときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず、次のことを確かめてください。

不調の状況	原因	処置	参照ページ
布地が送らない	●送り歯にほこりがたまっている	針板をはずして、掃除します	26
針が折れる	●細い針で厚地をぬったり、細い針に太い糸を使ったとき	「針と糸と布地の関係」参照	13
	●針の取り付け方が悪かったり、曲がった針を使用したとき	正常な針をきちんと取りつけます	14
	●布地を無理に引っ張ったとき	手は布地が曲がらないように導くだけにします	17
	●針止めねじがゆるんでいるとき	ねじをしっかりとしめます	14
	●押えがゆるんだりして針にあたったとき	押えホルダー止めねじをしっかりとしめます	15
	●針を布にさしたまま、模様選択ダイヤルを回したとき	必ず針を上げてから動かします	6
	●上糸のかけ方がまちがっている ●上糸の糸調子が強すぎる	正しく通します 上糸調節ダイヤルの目盛りを小さくします	9 16
上糸が切れる	●上糸のかけ方がまちがっている	正しく通します	9
	●針が曲がっていたり先端がつぶれている	正しい針と取りかえます	14
	●針が糸の太さと合っていないとき	「針と糸と布地の関係」参照	13
	●上糸の調子が強すぎる	上糸調節ダイヤルの目盛りを小さくします	16
	●針の取り付け方がちがっているとき	正しく取りつけます	14
	●糸が必要以外のところからみついているとき	正しく通します	9
	●ボビンが内かまに正しく入っていない	正しく入れます	11
下糸が切れる	●糸巻きの切りみぞを上側にセットしている	切りみぞを下側にします	8
	●内かまの糸の通し方がまちがっているとき	正しく通します	11
ぬい目がとぶ	●内かまの回りに糸くずやごみがたまっている	掃除をします	26
	●針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき	針を交換します	14
ぬい目に輪ができる	●針が糸の太さとあっていないとき	「針と糸と布地の関係」参照	13
	●上糸のかけ方がちがっているとき	正しくかけ直します	9
	●針が正しく取り付けられていないとき	正しく取りつけます	14
	●針板の下に糸くずがからまっているとき	送り歯、かまを掃除します	25,26
	●針と布糸の材質があっていないとき	「針と糸と布地の関係」参照	13
ぬい目に輪ができる	●上糸、下糸の調子が完全でないとき	上糸調節ダイヤルの目盛りを調節します	16
	●内かまの糸のかけ方がまちがっている	正しくかけなおします	11
	●糸調子がつり合っていない	適正な強さに調整します	16

不調の状況	原因	処置	参照ページ
布地が縮む	● 上糸の調子が強すぎる時 ● 上糸のかけ方がちがっていたり、余分な箇所引っ掛かっているとき	上糸調節ダイヤルの目盛りを調節します 正しく通します	16 9
ボビンに糸が巻けない	● ボビンが下糸巻き軸に完全に差し込まれていないとき ● 上糸が糸立棒からスムーズにでない ● ボビンを右に押して、ボビン押えを固定していない	完全に差し込みます 「下糸の巻き方」参照 「下糸の巻き方」参照	8 8 8
回転が重く音が高い	● 糸くずがたまっているとき	送り歯、内かま回りを掃除します	25,26
ミシンが回らない	● プラグの差し込みが不十分である ● 電源スイッチが入っていない	しっかり差し込みます スイッチを入れます	7 6

フットコントローラーのご案内(別売り)

コントローラーを使えば、足の操作でミシンのスタート・ストップ、スピードの調節ができるようになります。

⚠ 警告

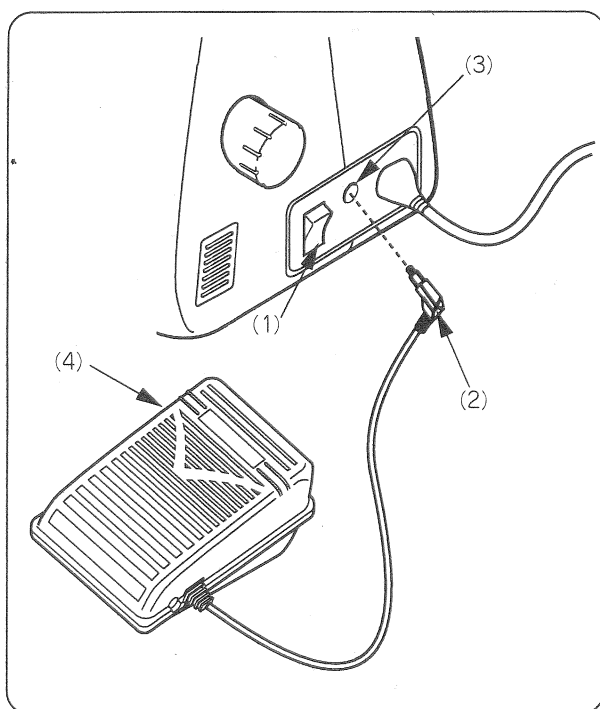
感電、火災を防ぐために

コントローラーは、落としたり、座ブツの下において使用しないでください。

⚠ 注意

けが防止のために

安全のため、コントローラーを接続するときは、必ず電源スイッチを切ってから行なってください。



電源スイッチ(1)を切ります。

- ・コントローラージャック(2)をミシンの接続口(3)に差し込みます。
- ・コントローラー(4)を足元に置き、電源を入れなします。

ペダルを踏むとミシンがスタートし、強く踏み込むほどスピードが速くなります。ペダルを離すとストップします。

- スピード調節つまみは、「はやい」にセットしてください。
- コントローラーを接続すると、スタート・ストップボタンでの始動はできなくなります。
また、コントローラーを踏みこみ運転中にスタート・ストップボタンを押すとミシンは停止します。
- コントローラーは必ず「シンガー純正の専用品」をお使いください。
- お求めはミシンお買い上げの販売店にご相談ください。